

3月21日 何事も一生懸命が「村田風」

プロ野球読売ジャイアンツで活躍中の村田修一選手のご両親による「子と共に育つ家庭教育講演会」が、国見生涯学習センターみんなかんで行われました。母親の村田明美さんが国見町野田の出身であることから、「地元のお役に立てれば」との思いで実現したものです。

明美さんと夫の裕文さんは、修一選手の幼少時代からプロに成長するまでの子育て体験を通じ、「子どもを信じ、成長に合わせて親も気持ちを切り替えていくことが大切」と語りました。



3月25日 猟師ん家のジビエ料理試食会

獣肉の利活用を推進するため、東部地区森林・林業活性化協議会と国東市鳥獣被害対策協議会は、ジビエ料理の試食会を開催しました。会場の安岐中央公民館には、国東市のほか、別府市・杵築市・日出町の猟友会に所属している猟師や奥さんなど50人が参加し、イノシシやシカ肉を使って串揚げやハンバーグ、鍋物を調理しました。試食した来場者は、「おいしいジビエ料理が簡単にできることを知りました。家庭でも試してみたいと思います」と話していました。



3月17日 国東高校柔道部 2年連続全国へ



国東高校柔道部の生徒8人が、3月20日から日本武道館で開催される「全国高等学校柔道選手権大会」への出場を目前に控え、三河市長へあいさつに訪れました。1月の県大会で男子は団体戦と個人1種目で優勝。女子は個人2種目で優勝し、柔道部としては2年連続で全国への切符を手に入れました。

男子の下山和哉主将は「団体戦と個人戦で出場します。一戦一戦悔いのない試合をしたい」、女子の吉成沙也加主将は「自分らしい柔道をして優勝したい」と決意を語りました。

3月21日 春分の日、今年も笑いの渦に



春のあたたかな日差しの下、「御田植祭」が安岐町明治の諸田山神社で行われました。境内を水田に見立て、滑稽な化粧をした男性や羽織袴の村役、可愛い早乙女役の男子小学生たちが、田植えのシーンをユーモラスに演じ、すきを引く牛役が激しく暴れ回ると、多くの観客から笑い声がこぼれました。

会場では地元の皆さんが、豚汁や椎茸まんじゅうなどを販売。市内の観光スポットを巡る「さ吉くんバスツアー」に参加した大分・別府市からの観光客23人も、初めて見る祭りに歓声を上げていました。



3月12日 ありがとう「国東号」ラストフライト

ソラシドエアの「地域振興・機体活用プロジェクト“空恋”」で、平成25年12月から運航していた「世界農業遺産の里・国東号」が3月14日をもって終了しました。大分線最後の運航となった12日、大分空港で三河市長や市職員らが搭乗客に観光パンフレットや粗品を配布し、ラストフライトを見送りました。



ソラシドエアによると、運航期間中は約31万4千人のお客様が搭乗したということです。



2月28日 健やかな成長祈り「雛節句」



弥生のムラで「雛節句」のイベントが行われました。お手玉雛や色紙雛などの雛人形作りのほか、史跡公園の大溝では「流し雛」が行われ、水面を流れる人形を眺めながら、子どもたちの健やかな成長を祈りました。



また、雛あられや甘酒、石がまびざもふるまわれ、多くの家族連れがおいしそうに食べていました。会場ではOBSラジオ「ぐるぐるっと∞くにさき」のトピッカーが生中継。マイクを向けられた子どもたちは笑顔でインタビューに答えていました。

3月15日 ペトロの森で手作りウエディング

ペトロカスイ岐部記念公園の裏山にある国東半島芸術祭の作品「説教壇」で、国見町伊美の吉田拓也さん・真由美さんが結婚式を挙げました。芸術祭のスタッフとして県外から移住したお二人は、説教壇の上で指輪の交換をして愛を誓うと、友人や芸術家仲間ら100人が祝福し、手料理が並ぶ森の中でパーティーを楽しみました。

お二人は「芸術祭を通じて多くの方々にご縁をいただいた。この場所を出発点として力を合わせて歩いていきたい」と喜びを語りました。



3月3日 児童クラブに書籍・玩具を寄贈



ソニーセミコンダクタ(株)大分テクノロジーセンターの社員が、市内の放課後児童クラブに漫画やおもちゃなど約200点をプレゼントしました。竹田津放課後児童クラブで贈呈式が行われ、市内3カ所から児童が集めし品物を受け取り、児童代表の梶原幹大君が「大切に使います」と社員へお礼の言葉を述べました。

同社では社会貢献にとりくむ「<sup>さん</sup>燦活動」の一環として、国東市へ毎年寄贈を続けています。